びわこ学園

後援会ニュース

for a bright tomorrow

No. 129　2023年10月１日発行

びわこ学園後援会事務局
〒520-2321　滋賀県野洲市北桜978-2
びわこ学園医療福祉センター野洲内
TEL(077)587-1144　FAX(077)587-4211
ホームページ：https://www.biwakogakuen.or.jp
発行責任者　島田　司巳
編集責任者　豊口　みか

びわこ学園OB通信

〈私の二十代〉

磯春樹

●職場に育ててもらった。いや、育ててくれたのは両親か。職場に教えてもらった、かな。

自分が二十二歳から勤務してきたびわこ学園のことである。

●ものを知らず、のほほんと生きてきた若僧に、一から教えてくれた。その給料で暮らしを支えてもらってきた。低賃金重労働ではあるが、自分には常に、金銭以上に受け取っているものがあった。

言葉が喋れなかったり伝えにくかったり、体が動かせなかったり思うように動かしにくかったり、さまざまな理由から生きづらさを持つ人たちと出会い、長い付き合いをさせてもらってきた。

●はじめ、彼や彼女らの前で、どう話しかければよいのか、何をすればよいのかわからず、ただ座っているか立ちすくんでいるかで、緊張と疲労感だけが積っていた。

男性が陰部をさらし、若い女性職員にしびんで尿を採ってもらう現実を、現実として受けとめられずにいた。自分に笑顔でさりげなくしびんをあてる行為がとれるかどうか、自信も持てなかった。

突然のてんかん発作を前にしても、何が起きているのか理解できずにいた。

●そのうち、同じ格好で座ってみたり、横に寝転んで、そこから何が見えどう聞こえるのかを感じてみたりもした。体に触れると暖かかったり冷たかったりした。スプーンくらいしか握らない手の柔らかさや、筋緊張や自傷行為による皮膚の硬さにも気づいた。

一人一人に強い個性があり、それぞれが人間の原石のように思えてきた。個有の内面世界があり、その豊かな心の内に分け入ってみたいと引き込まれていった。生まれて以来初めて、人間同士密に接し合う感覚を持った。

●それまで、したい仕事は何か、見つけられずにいた。働くなら、人の役に立てる事ができれば、とは漠然と思っていた。社会福祉学科の友人に、障害者施設で求人があると紹介

1/8

2/8

してもらった。

知らない場所にある知らない施設。それが、滋賀県野洲市大字南櫻にある、第二びわこ学園だった。重症心身障害って何？

●アルバイトとして雇ってもらえた。三病棟の中の一つ、東病棟。すべてが初体験。先輩職員から言われるまま覚え、することを真似るだけで精一杯。いやそれですら半人前。

そのくせ心の中には、次第にさまざまなことへの反撥が生まれていった。一九七〇年代初めの日本。世間は憐れみと同情、無理解と偏見に溢れていると感じた。距離が保てていれば可哀想に、至近距離になればあっちへ行け、の時代だった。

●介護比率が低く、しかも人力頼りの福祉施策。大規模入所施設での、家庭生活とは大きく異なる暮らしぶり。幼少期から親と遠く離れての集団生活を余儀なくされる障害者福祉の実情。児童福祉施設でありながら、長期入所により成人化していくことから起こる多く

3/8

の不都合。教育猶予免除という形で学校から締め出された当事者たちの義憤や焦燥。

そして何より余りに無力な自分自身。

なぜ障害があるということで、こういう生き方しかできなくなるのだろう。自分にはそんなふうにしか思えずにいた。

●先輩職員たちは、無知で経験の浅い者に対しても、自分たちはこんなふうにしているけど、どう思う？　と聞いてきてくれた。

第二びわこ学園ができて六、七年しか経っていない頃のこと。すべてがまだまだ混沌としていた。療育の内容や方法、対応のあり方、思いの汲み取り方、志向の引き出し方など、情報を伝え合い、模索しながらの合議形成。わずかずつでもひずみを埋めていこうとする集団の姿にも大きな刺激を受けた。こういう職場で働きたいと思うようになった。

入所者と病棟職員の年齢が近かった。職員の多くは独身で寮にいた。仕事が終わると集まって話をしていた。酔いがまわって時には

4/8

口論となることもあった。みんな総じて若かった。

●入所施設の日常。個室はなく畳敷の大部屋のみ。横並びの部屋と部屋の仕切りは腰壁のため声は筒抜け。畳に寝転んでいる人のすぐそばを歩ける人が往来。夜は畳に布団を並べてのざこ寝。プライバシー？　そんなものは無い。

車椅子は共用が殆どで台数も少なく、散歩もリヤカーに三人ほどを乗せて出かける。

トイレの個室は、横の間仕切りはあるもののドアは無し。おむつは浴衣地などで作った布製。おむつ組みやおむつについた便の汚れ洗いは業務の一環。洗って繰り返し使う。

風呂は大浴槽。職員が抱えて湯舟へ。暑い夏も週二回だけ。入浴後は日中から全員パジャマ姿でうろうろ。

朝食は全員大皿に盛られたおじや。夕食は午後四時から。朝食と昼食、昼食と夕食の間が、三時間半ずつしか開いていない。

5/8

盆も正月も日曜も、年中同じ生活時間。

●異性介助は当り前。それでは羞恥も伴い丁寧な介助ができない、入所者からの要望も出ているという訴え。片や、待たせてでも同性介助優先か、不快を早く取り除くことが先決との意見も。

週課は無く、入浴日が決まっているのみ。月課は、行事の他は月一回ずつの園外活動と調理実習日をグループ会議で決めるだけ。あとは勤務者任せのその日暮らし。

●長期休業者も多く慢性的な人手不足により、療育活動に向かう以前に、日常生活動作介助に追われ、その時点ですでに疲弊気味の現状。

周りの職員は、労働条件の悪さや腰痛頸腕症候群といった体調面から、中には施設解体を主張する人もいて、次々と辞めていった。一九七三年には、ついに入所者の退園問題が出される。

●そんな中にあって、自分の気持ちもざわついた。ここに残ることは施設擁護派ということ

年齢に拘わらず

6/8

と？　隔離し自由を束縛している？　いずれ体壊して辞めていくだけ？　ある時、入所者の親から言われた。「職員はいつでもやめられる。けど親は一生やめられない」

すでに自分は、入所者に支えられ活かされ励まされていることを実感していた。彼らの前では頑張れた。中にいないと見えないものもある。そばに居続けなければできないことがある。自分は留まるという選択をした。

●系賀一雄という人の名も知らなければ、会うこともなかった。あの有名な言葉も、作られた映画の存在も知らなかった。しかし、彼が創ろうとした施設はきっと、生活介護や医療看護、ましてや家庭救済、だけの場ではなかったはず。施設を拠点として、重症児者の発達保障や療育実践の場を作る、人権が守られ人格が尊重される社会作りに貢献する、そうした大きな目標がもくろまれていたはず。

専門的なことはわからない。けれどそう信じたかった。そのために自分はここにいるのだと思いたかった。すべきこと、変えねばならないことは、明確に山ほどあった。

施設の置かれた現実は厳しい。それでもびわこ学園には闊達な雰囲気があった。何でも言えた。やる気があれば何でもできた。

●人の役に立ちたいと思って仕事に就いた。そしてそれがいかに難しいことであり、実現には多大な時間と労力を要することであるかを痛感した。長い旅の始まり。私の二十代。

今回のOB通信は、いただいた原稿をそのまま掲載させていただきました。

ことばの絵の具箱

コロナ禍を乗りこえ、交流・イベント復活！

びわこ学園医療福祉センター草津　生活支援部　中能かおり

今年度に入り、これまで控えていた病棟間の交流やイベントが復活しました。今回はそんな活動やイベントをご紹介します。

♪３つの病棟の音楽好きな利用者が集う「合同音楽活動」♪

コロナ禍では病棟別に活動を行ってきましたが、５月に久しぶりに各病棟から利用者が集まって一緒に活動を行いました！

「明日があるさ」を病棟ごとに利用者さんの名前を入れて替え歌で歌ったり、センター草津で歌い継がれている「学園の春」を新しい仲間にも伝えていこう。と新たな定番ソングに取り上げています。やっぱり集団には集団でしか味わえない一体感があります。

～オカリナの音色～

これまでお手伝いを通して交流を目的としてきた「Good Jo部」３病棟で「フラワーク」としてリニューアル

～ポストのお手紙を届けます～

～お仕事が完了したらご褒美シールを選んで貼ってもらいます！～

活動名はフラワー（花）×ワーク（仕事）の造語です。養護学校を卒業した若いメンバーも新たに加入しました。病棟や事務所、その他いろいろな部署から仕事を請け負っています。ビックマック（音声を録音しスイッチを押すと再生できる）を足や肘で押して宣伝し、それを聞いて声をかけて下さる方も多く、たくさんの人との交流を楽しんでいます。

４年ぶりの開催「児童成人福祉施設協議会のスポーツ大会」

センター草津からは２病棟のあらいぐまグループと３病棟から２名が参加しました。

これまではジャンボビーチバレーが定番でしたが、今年は新たに「ボッチャ」で対戦。センター草津＆野洲の合同チームで臨みました。初めて「ボッチャ」を体験される方が多かったのですが、的のボールを目指してそれぞれが思い切り投げ切りました！

応援も大いに盛り上がりました。

～スポーツ大会
表彰式「笑顔が良かったで賞」～

みなさま、いつもありがとうございます

後援会会費納入者ご芳名

★2023年4月1日～2023年7月31日受付分

（敬称略、順不同）

［2023年度分会費］

坂野　幸江　遠藤　六朗　横田　正　口分田政夫
秋山　未伊　島田　司巳　島田　寛子　諸岡　茂實
江崎喜久雄　塩見みゆき　若林　秀行　斎藤　恭子
阪本　博史　立入　幸基　西浦　正一　久木　憲治
松田　正義　伴　幸彦　古家かつ江　斎藤　文夫
青谷裕美子　小幡　良雄　松永　洋一　笹井　忠夫
田中　光弘　林　隆一　西島　悟司　西島　嘉子
安藤　正春　辰己　麻美　小川　緑　崎山美智子
谷口　吉忠　中村　昭代　百々　洋子　山田　俊子
安孫子邦夫　立岩　祥子　ピアーズ保護者会　さくらはうす家族の会
市村　康和　尾見　吉延　垣貫　邦男　小松　光義
沢　正一　田邉　和子　前田久美子　橋口　節郎
垰　真寿美　馬杉　直宏　光吉　俊子　森田　久男
山本　芳子　吉永　滋　秋田その子　秦　紀久子
磯尾　博司　入江　至　上田　博　山岸　真弓
川田　忠夫　北村　庸雄　木戸　寛　久保川信雄
小寺　理恵　小林　道夫　白井　実　北本　宰一
七里　壽子　齊藤　和子　豊永ふさ子　中川　昭
西澤　伸司　西澤　誠　西村　悟　長谷川一子
古川　武義　松林　聖一　三宅　精　本舘　勇
村田　圭三　山本　節子　若林　敬司　渡瀬　さと
井上　和夫　上田　淑子　浦　伸年　大見　中
柏木　英秋　小中　政治　磯崎　聖子　佐野　富子
外山　妙子　曽田　武男　髙井かづみ　鳥居　宣俊
中谷　佐敏　永田　雅子　西田太治郎　荻曽　潤子
幣　尚子　増田　潤一　松田　徹　稲垣千賀子
立岡ひろ子　梅本　勉　大﨑　よし　大橋　政子
音瀬さえ子　金谷　克子　加藤　博　河村　善一
黄瀬　金司　久野　春夫　桒原美代子　小泉長志郎
島田　綾子　島村　初美　菅井　定幸　田代　昭次
高橋まき子　竹本　豊春　塚本登志子　中山　由花
林　正浩　増田　隆治　枡谷　幸一　水野　達郎
宮澤　智子　梅井　幸子　山岡・安達　山中　久子
山本　喜平　下出　美香　大瀧　定子　西澤みどり
荻原　正人　葛田とみ子　齊田　浩　斎藤　恵子
佐野　勝彦　今村とも子　角田　憲隆　髙岡　敏子
髙橋　正一　高橋　麗子　田代　弘道　田中　敬久
谷本　弘　田邉　輝子　中澤　偉久　西　文子
能勢　光明　橋村　秋み　林　博明　福本喜美代
堀江　佳子　本田マサ子　前河　正義　丸岡　重隆
明光　竹夫　森　幸雄　元田とも子　山本　一義
益田美代子　浅井多喜雄　後藤キミ子　濱　由佳子
大橋　末雄　小川きぬ代　奥村　文子　榎　宏之
川上　進　千田　湧三　大黒　智行　竹中　良枝
谷口　晃　堤　未彦　新見　千恵　西浦ひさ江
西村　隆宏　仁田普一郎　野田　文子　林　髙春
原田　和徳　戸次　公正　武藤　一美　大原よし子
吉川　朝子　吉永　清夫　米津　節子　若杉　安雄
渡辺有久子　岩田　淑子　時札　節雄　寺田　正子

［2024年度分会費］

古寺　恵子　若林　登子　塚本　正弘　塚本　昌子
深田　佳子　斎藤　文夫　兼岩　龍善　宮本　英夫
仙田　和子　大藤　耕平　百々　洋子　山﨑　正策
山﨑　有子　神谷　保彦　伊東　徹也

［2025年度分会費］

川合　清　兼岩　龍善　神谷　保彦

［2026年度分会費］

兼岩　龍善　神谷　保彦

後援会寄付金納入者ご芳名

★2023年4月1日～2023年7月31日受付分

（敬称略、順不同）

諸岡　茂實　池谷モモヨ　駒井　潔　小幡　良雄
松永　洋一　笹井　忠夫　小川　緑　市原　邦雄
柳　惠子　稲垣　裕子　百々　洋子　神谷　保彦

びわこ学園後援会では会員を募集しています！

びわこ学園後援会は「この子らを世の光に」という理念のもと、重い障害を持たれている方がたへ支援しているびわこ学園の事業支援や事業理解をより多くの方に拡げていくことを目的に活動しています。

この活動趣旨をご理解いただき、ご賛同いただける方を募集しています。

ご入会していただくと

- ●びわこ学園後援会ニュース、びわこ学園だよりを送付します。（年３回）
- ●びわこ学園記録映画「夜明け前の子どもたち」「わたしの季節」のDVDを販売価格から一割引き（￥5,000⇒￥4,500）で購入できます。

会費

個人：3,000円　　法人・団体：30,000円（年一口）

ご入会の手続きについて

下の振込取扱票を切り取っていただき、必要事項をご記入の上、郵便局で手続きをお願いします。（郵便制度の改定により、現金でお振り込みいただく場合には加算料金110円がかかります。）

また、振込取扱票が無い場合は、直接事務局宛にご請求下さるか郵便局に備え付けの振替用紙に以下をご記入の上、手続きをお願いします。

（口座番号　01080　2　9958　社会福祉法人びわこ学園　後援会）

各票の※印欄は、ご依頼人において記載してください。

02　大　阪

払　込　取　扱　票

通常払込料金 加入者負担

口座番号　0 1 0 8 0 − 2 − 9 9 5 8

金額　千 百 十 万 千 百 十 円　※

加入者名　社会福祉法人びわこ学園 **後援会**

料金　備考

通信欄　※
1．びわこ学園後援会会費　　年度　　口　　円
2．びわこ学園後援会寄付金　　円

紹介者

ご依頼人　※（〒　　−　　）
おところ
おなまえ
（電話　　−　　−　　）

日附印

裏面の注意事項をお読みください。（ゆうちょ銀行）（承認番号京第2567号）

これより下部には何も記入しないでください。

切り取らないでお出しください。

記載事項を訂正した場合は、その個所に訂正印を押してください。

振替払込請求書兼受領証

口座番号　0 1 0 8 0 − 2　通常払込料金加入者負担
9 9 5 8

加入者名　社会福祉法人びわこ学園 後援会

金額　千 百 十 万 千 百 十 円　※

ご依頼人　おなまえ　※

料金　日附印

備考

この受領証は、大切に保管してください。

後援会会費・寄付金納入者累計

		区　分	当期受付分	累　　計
会費	2023年度分	会員数	198人	198人
		口　数	202口	202口
		金　額	610,000円	610,000円
	2024年度分	会員数	15人	15人
		口　数	17口	17口
		金　額	53,000円	53,000円
	2025年度分	会員数	３人	３人
		口　数	３口	３口
		金　額	9,000円	9,000円
	2026年度分	会員数	２人	２人
		口　数	２口	２口
		金　額	6,000円	6,000円

	区　分	当期受付分	累　　計
後援会寄付金	会員数	12人	12人
	金　額	161,000円	161,000円

編集後記

今年の夏は、記録的な暑さでしたね。気象庁によりますと、先月の全国の平均気温は平年と比べて1.91度高く、気象庁が1898年に統計を取り始めてからこの125年間で最も暑い７月となったようです。そんな暑さの中では食欲もなくなりますが、我が家では麺類の登場回数が増え、食欲が衰えることはありませんでした。そうめん、ざるそば、ざるうどん、冷やし中華、パスタにラーメン。暑くても、この手のモノはツルツルっと食べられちゃいますね。ミョウガや大葉などの薬味や、オクラや山芋などのネバネバ系をトッピングすると更に食が進みます。ご家庭により色々な麺の食べ方があると思いますが、ネットでレシピを検索したら、いくらでもうまそげなお手軽麺類が出てきます。慌ただしい日々の中、仕事に疲れた時も、ご飯を作らなければならないお父さん、お母さん。少々手抜きと思われても、登場回数が多くても、麺類万歳！！手軽に美味しいご飯を作りましょう。（T）

夏祭りの報告

後援会事務局　医療福祉センター野洲　担当　吉岡

８月24日、センター野洲にて新型コロナウイルス感染症流行後初めて、ご家族やボランティアさんも参加していただいて夏祭りを開催しました。あいにくの天気でJERRYBEANSさんのコンサートは屋内開催となりましたが、利用者さんにとって普段と違う場所であったり、音や光であったり、非日常的なたくさんの刺激を受けられて、貴重な時間を過ごされたことと思います。お手伝いくださった後援会の皆さんをはじめ、たくさんの人に支えられ無事終えることができました。心よりお礼申し上げます。

また、夏祭りの様子をホームページの「医療福祉センター野洲　およみやす」でぜひご覧ください。

（ご注意）
・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。
・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙
5万円以上
貼　　付

印

この場所には、何も記載しないでください。